

5月25日2009年

沖縄県振興審議会 総合部会 メモ

富川 盛武

1. まとめ方

(1) 「先見性」「戦略性」 ビジョンには先見性、戦略性が不可欠である。

県は資料提供をしている訳であり、単それをまとめるだけではビジョンになり得ない。

それを基に先見性、戦略性を盛り込む事が肝要である。

時代に劣化されないビジョンが必要であり、国のビジョン等以外の発想（先見性）が必要である。47都道府県とは異なる沖縄独自の視点からの論の展開が重要である。

現行の沖縄振興計画も残すところ、あと3年となった。もし新たな振興計画はあるのであれば、沖縄21世紀ビジョンを根拠にして、重要項目を入れ込むことを要請できる。（戦略性）

現行の振興計画で終了という場合も、今後の沖縄の発展を示す指針となる。（先見性）

あるべき沖縄、ありたい沖縄を示す意義は目標という意義以外に政策の関連がある。現実のベクトルが異なった方向に行った場合、修正する意義（戦略性）がある。

(2) 議論の土台

振興計画の課題との関係性（課題の認識と解決の方向）

第1次から3次までの沖縄振興開発計画、そして現行の沖縄振興計画を総括し、残された課題を認識し、それらの課題を解決する方法で沖縄21世紀ビジョンを議論しなければならない。

他の21世紀ビジョン、とりわけ政府の21世紀ビジョンの理解

県の基礎資料は国の21世紀ビジョンの様式を引用している。但し、中味は当然沖縄独自のビジョンを示さねばならない。

限られた時間で、議論し報告書をまとめるためには、基礎知識を共有し効率的な議事進行が不可欠となる。

2. 審議会報告書（文章化）の確認

21世紀ビジョン報告書は、当然、議論の議事録ではなく、今までの事務局の主要意見のメモは並列的でまとめには成り得ない。先見性、戦略性等の意味を込めた文章化が必要であり、その点検も不可欠である。

4. オブザーバーの参加

報告書の練度、熟度を高めるためには、各分野の専門的知識が不可欠である。審議会委員も含めた総合部会委員以外の出席を可とする。